

夏がゆく

布宮慈子^{やすこ}

始まりは終はりのはじまりこの夏に「書物屋ほんべえ」店を閉ぢたり

山形県河北町^{かほくちやうやち}谷地中央の書店の明かり灯らぬ夕べ

若き日の一年間を手伝ひき書物屋ほんべえ開店の年

四十年ちかくも店は愛されて 飯野さんと店おつかれさま

ガラス戸に井上ひさしのことばある書店の「^{ツイッター}Twitter」更新されざる

富沢に抜ける道の辺 夏木立 拾ひし猫の影見当たらず

あまりにも軽き仔猫に震へたる昨夏のわが手おもふときあり

オニヤンマ、セミやアブさへ捕まへる猫であるとふファクスが届く

満ち足りし仔猫を撫でていい猫になると獣医師たしかに言ひき

月山の雪溪^ち小さくなりゆけば赤とんぼ来て夏が過ぎゆく